留学生と日本語教育
—アンケートにみる—

多和田眞一郎

1、はじめに

「留学生を御指導中の教官」宛に、広島大学留学生センター日本語教育部門より次のような「留学生の日本語教育に関するアンケートのお願い」をした（2002年11月12日付）。

広島大学留学生センター日本語教育部門では、広島大学に在籍する留学生を対象に、「日本語・日本事情」教育を中心とする日本語・日本文化に関する教育を実施し、相応の評価を得てきております。（詳しくは、次の留学生センターのホームページを御参照ください。

http://www.iie.hiroshima-u.ac.jp）

さて、当日本語教育部門では、いろいろな場をとおして、留学生には日本語教育に関するニーズ調査等を実施して、カリキュラムの充実・発展に努めてまいりましたが、留学生を御指導中の先生方に実情を聞く機会に恵まれませんでした。そこで、今回、実情を把握すべくアンケートを実施することといたしました。

仄聞するに、留学生の日本語能力に問題があり、指導に支障をきたしている例もあるということです。アンケートの結果によっては、このような例にも適切に対応できるヒントが得られるのではないかと期待しております。

また、条件が整えば、結果を集計・整理して、留学生センターの紀要のひとつである『広島大学留学生教育』に資料として掲載し、大方の参考に供したいと考えております。

お忙しい折に恐縮ですが、11月30日までに御返送頂けると幸いに存じます。

＜アンケートの送付先及び連絡・問合せ先＞

広島大学留学生センター　日本語教育部門　多和田　眞一郎

電話・FAX：0824－24－6283　E-mail：tawata@hiroshima-u.ac.jp

留学生を指導中であると判断される、353人にアンケート用紙を送り、11月30日までに162人から回答を頂いた（実際のアンケートは、資料として後掲）。その結果を整理し、一次的資料として報告するものである。参考になれば幸いである。

2、留学生の多様化

留学生の数が増加したことに伴い、その専門・出身・動機・意欲等種々の面で多様化して来

ており、「留学生」として一括りにできないような状況となっている。そうであるなら、アンケートは、もう少しきめ細かく、場合、状況などに応じたものを考え、実施すべきだという意見が、当然のように出てこよう。アンケートの回答の中にもそのような記述があった。

それは重々承知しながら、今回は、多様さの中の最大公約数的なものを、共通の何かを求めることにした。アンケートの回収率を高める意味もあって、短時間に簡潔に答えられるアンケートを志向した。

3、アンケートの項目

短時間に簡潔に答えられるアンケートの項目数は十前後だろうと考えて、「Ⅰ～Ⅻ」の十二項目にした。「Ⅰ～Ⅳ」は留学生と日本語に関する一般的な事柄、「Ⅴ～Ⅶ」は少し踏み込んだ具体的な事柄、「Ⅷ～Ⅺ」は留学生センターの日本語教育について、「Ⅻ」は自由記述である。

4、各項目の集計結果

集計結果とともに、参考として、項目についてなされた記述もいくつか紹介する。

各項目の集計結果に関して、若干のコメントを付けた。

（「回答せず」あるいは「記入漏れ」の結果、合計が「100%」にならない項目がある。）

Ⅰ　留学生が日本語が十分に使えず、指導上困っているか。	①非常に困っている	4.94%
	②時々困ることがある	25.93%
	③あまり困っていない	27.16%
	④ほとんど困っていない	20.37%
＜記述＞②日常会話 ⑤押し付けられた		

③と④とを合計すると50%近くになり、半数は困っていないようで喜ばしいことであるが、②が25%強あるのは看過できまい。数値が小さいとは言え、①もある。この方面に関してどのように支援すべきかが問われることになる。

Ⅱ　指導を引き受ける際、留学生の日本語能力を考慮したか。	①かなり考慮した	11.11%
	②ある程度考慮した	22.22%
	③あまり考慮しなかった	22.84%
	④ほとんど考慮しなかった	20.37%

③と④とで40%以上を占めている。問題を内包しているようである。

Ⅲ　留学生から、日本語能力が不十分なために日本での生活に支障があると聞いたことがあるか。	①大変支障があると聞いている	0.00%
	②時々困ることがあると聞いている	29.63%
	③あまり困らないと聞いている	18.52%
	④ほとんど困らないと聞いている	12.96%
	⑤そのような話は聞いたことがない	17.28%

③と④とで約30%、問題なしと思いきや、②も同程度である。その「困る」内容を精査して指導に役立てる必要がある。

Ⅳ　留学生と日本語についてどう考えるか。	①日本語が使えなくてはいけない	22.22%
	②日本語はある程度できればよい	35.19%
	③自分と英語等で意思疎通ができればよい	22.84%
	④留学生に日本語は不要だ	1.85%
＜記述＞英語などを使えない教官は留学生引き受けに慎重になるべき		

④と思う人がいることは、念頭においておくべきであろう。③もこれに準じるものであろうと考えられる。

②の「ある程度」については、次の「Ⅴ」と連動することになる。

※「%」について、Ⅴ以降は、Ⅳで④を選択した人以外（157人）で計算した。

Ⅴ　留学生にどの程度の日本語能力を求めるか。	①専門の発表ができる	5.10%
	②日常生活に困らない	26.75%
	③片言で会話ができる	28.03%
	④挨拶ができる	21.02%
＜記述＞②学生が日本語を使わなくても生活ができればよいという意味 ②授業での口頭でのやりとり ○学部生・大学院生で事情は大きく異なる		

「授業での口頭でのやりとり」まで「日常生活」に入れるとなると話は違ってくる。「大学における生活」と考えればそういう捉え方も可能であって、排除できるものではないが、今のところ、そうではないとしておく。

そうした場合、「Ⅳ」での「ある程度」がここ「Ⅴ」での②③④に対応することになる。この3つを合わせると75%以上となる。そのうち③と④とで50%近くを占める。留学生の日本語にさほど期待していない人が半数近くにも達することになる。

逆に、留学生自身はどうなのか、詳しく調べてみなければなるまい。自分は日本語が必要だと思い、一生懸命勉強したいのだが、専門の先生が「日本語は要らない」と言うのでどうしたらいいか迷っていると暗い顔をして言った学生のことが思い出される。

Ⅵ 留学生に日本語を勉強させなければいけないと思った時、どうするか。	①留学生センターの日本語授業を受けさせる	11.46%
	②日本人学生に指導を依頼する	22.93%
	③教材を渡して自分で勉強させる	23.57%
	④自分で教える	21.02%
	⑤研究室単位で援助している	0.00%

＜記述＞（②③④に関して区別せず、順不同で列記する。似た内容のものをまとめた場合もある。）

☆簡単な研究発表を定期的にさせる。研究室でのゼミ発表を日本語で行う。

☆自主ゼミで日本語に慣れたり、個別ゼミで日本語を用いたりする機会を多くしている。

☆レジュメの点検

☆ゼミなどで専門用語の解説

☆日本人スタッフと過ごす時間を長くさせる。共同研究や飲み会などをさせる。日本人とペアを組ませる。

☆テレビをよく見るように指導

☆テキストを使ってトレーニングしている。生活や研究室で理解できなかったことを聞いてやることにしている。

☆できるだけ日本語で話す。研究室の日本人学生と積極的に話させる。日本人学生と共通の院生室を使ってもらい、接触の機会を設ける。セミナー中は院生は日本語・日本文化を解説する。

☆文献を読ませる。

☆代筆、英語で解説

☆論文の修正など

☆（謝金で）日本人大学院生に専門指導も含めて指導させることを実施中

①の数値が低いことから、留学生センターの日本語教育が期待されていないと見えないこともないが、Xとの関係で考えると、そうではないことがわかる。つまり、専門の授業を優先させなければならない現実があり、それとの兼ね合いでの措置が前述の内容であるのである。これは「XII」の記述からも現れてくる。そこで改めて述べる。

VII 留学生が必要な日本語能力は、いつ身につけるべきか。	**①研究生になる前**	**30.57%**
	②研究生になってから	**19.11%**
	③正規の学生になってから	**13.38%**
＜記述＞必要に応じて学べばよい。		

建前と本音の乖離はどこでも起こることである。「日本の大学で研究をするのであるから、その前提となるべき日本語の運用に問題はない」のが研究生のはずであるが、現実にはそのような研究生は多くないということを物語る。

VIII 留学生センターの日本語の授業について知っているか。	**①よく知っている**	**17.83%**
	②ある程度知っている	**22.93%**
	③あまり知らない	**36.31%**
	④ほとんど知らない	**23.57%**
＜記述＞④離れたところに所属する留学生にはセンターで学ぶことは困難だと思う。		

毎年4月と10月とに行う、「日本語・日本事情」教育のためのプレイスメントテストに関するお知らせを初めとして、留学生センター運営委員会を通じて、あるいは各種印刷物を通じて、留学生センターのホームページを通じて等等、あらゆる機会を通じて留学生センターの（日本語教育に関する）広報をしてきているのであるが、「あまり・ほとんど知らない」という回答が60%近くだという現実がある。情報伝達の難しさを痛感する。

「独立した建物がないから留学生センターそのものが認知されにくい」のだという指摘はもっともな事ながら、独立棟建設は現状では容易くない。そうであるから「その他」の記述にあった「留学生センターのホームページの存在を知ることができ大変よかった」というのを励みにして、更なる工夫を重ねつつ広報にこれ努めるしかなかろう。

Ⅸ 留学生が留学生センターの日本語の授業を週何時間履修しているか把握しているか。	①よく把握している	1.91%
	②ある程度把握している	25.48%
	③あまり把握していない	39.49%
	④ほとんど把握していない	12.74%

①②の合計が3割弱あることを喜ぶべきか、③と④との合計が5割以上あることを嘆くべきか。

Ⅹ 留学生センターの日本語の授業を受けるように勧めているか。	①渡日1年後ぐらいまでの留学生には日本語の授業を優先するように勧めている	0.64%
	②日本語と専門とのバランスをとるように指導している	50.32%
	③日本語の授業の必要性を認めるが、専門を優先せねばならぬ状況にある	22.29%
	④専門の授業を優先させている	8.92%
＜記述＞○本人の意志に任せる。 ○指導していない。 ○留学生センターで日本語を受ける必要がある学生を持ったことが無い。		

Ⅵと関係する項目である。「日本語とのバランスをとるように」の中身は何か。他の項目での現れを参考に考えると「専門に支障がないようにバランスをとるように」ということであるように思われる。日本語教育の必要性は認めながら専門との関係で日本語教育を二の次にしなければならない現実がある。ここから、昨今の流れである、所謂専門教育と日本語教育との連携は如何にあるべきかを考えることの必要性が浮上して来る。

Ⅺ 留学生センターが現行の授業以外の日本語クラスを企画・運営した場合、支援する用意があるか。	①大いに用意がある	6.37%
	②ある程度用意がある	10.19%
	③どちらかといえば用意がある	46.50%
	④あまり用意がない	28.66%
	⑤ほとんど用意がない	3.18%
＜記述＞抱える留学生数に応じて援助		

「抱える留学生数に応じて援助」が代表的意見ではあろうが、①②③の合計が6割以上であることは心強いことである。

5、留学生に対する日本語教育の形態（項目XIIの集約）

(1) 開設時間帯

「夕方もしくは土曜日」「夕方から」「17 時以降」「午後 3 コマ」「夕方～夜間」「夜間」「午前中」「1・2 時限か 9・10 時限」「土日」等のアンケート結果が示された。

表現の仕方は異なるが、結局のところ**「授業時間外」**を望んでいるのであり、**「研究室の公式行事スケジュールと重ならない時間」「専門科目の授業に重ならない時間帯」**という意見により、その「授業」なるものが「専門」のそれをさしていることがわかる。

専門を主にして考えれば、上記のようになるかもしれないが、どちらが主でどちらが従かという問題ではなく、補い合う関係でなければなるまい。それには授業時間帯の調整が必要になろう。「教養的教育」の「外国語科目」は曜日と時間が（優先的に？）設定されていて、その時間帯には他の科目は組めないようになっているという例がある。これに倣った形での全学的調整ができることが理想であろう。**「特定の曜日コマで継続して」**という意見があったが、このようなことを念頭に置いた結果かも知れない。

他に**「渡日後の早い時期の徹底的強制的集中的指導」**というのがあった。留学生センターで実施している、国費留学生のための半年間の短期集中日本語予備教育「日本語研修コース」がモデルとなろう。但し、今のところ、制度上の制約があって、このコースに誰でも出席できるというわけにはいかない。制約が解け、条件を満たした希望者は出席できるという日の早く来ることを望むものである。

(2) 時間数

「時間数は多いほうがいい」「週 2 回(2コマ)くらい」「週 1 回」とはっきりした時間数を示していないものから**「最低週 10 時間」「週 3 日程度×3 時間」「週 3 回程度各 2 時間」「毎日 1 時間」**と数値を明示したものまでいろいろで、ニーズに応じてということになろうが、かなりの時間数が必要だという共通の認識があると判断される結果となっている。

(3) クラスの規模

「少人数クラス」「10 人から 15 人」「10 人程度」「数名単位」「4～5 人」に集約される。

言語習得の実を上げるには、短期集中で 1 クラスの人数は 5~7 人が望ましいと言われている。専門家でなくても経験的に是認できる数値であるらしいことがアンケートにも現れ、意を強くする。しかし、この方式はコストのかかるものなので、教育にも経済性を要求する時勢にあっ

ては、その実施に相当の覚悟が求められる。

(4) 教える内容

必ずしも内容で括れるわけではないが、教材・カリキュラムに関する事柄として代表的なものを集約してみると、以下のようである。ある程度整理したが、順不同である。

○日常的な言い回し、基本的な日常会話、日常生活に役立つもの、聞き取り・会話
○簡単な読み書き、書く能力の向上、読みよりも文章を書くことを重視した指導 / 論文を書ける程度の日本語教育、論文レベルの読み書き、日本語のアカデミック・ライティングの授業
○漢字
○文法
○美しい日本語
○専門科目の講義を内容としつつ日本語を教える。
○外国人に理解してもらいたい日本文化に関する内容、日本人の表現の仕方を紹介する内容
○大学関係の書く書類の書き方の例示、個別に必要書類の作成や日本語で書かれた書類の説明

基本的な日常会話から日本語による論文の読み書きまで、それこそ「初級から上級まで」「易しいものから難しいものまで」希望は様々である。(その中にあって基本的な日常会話の指導と書く能力の養成が、多かった。) 背景が違い、レベルが違い、ニーズが違うという、多様な対象なのであるから当然である。我々に求められていることは、これを如何に教材化するか、カリキュラム化するかである。

書類関係はすぐにでも教材化できるであろうし、**「専門科目の講義を内容としつつ日本語を教える」**は、専門科目担当者と日本語教育担当者の連携を促す好材料となろう。

(5) 方法、体制 (あるいは体勢) 等の全般的なこと

参考になりそうなことをランダムに列記する。

○センターの日本語授業を大切にしている。/ 留学生センターに一任する。
○単位を与えなくてもよいので、非公式の授業として設けてほしい。
○語学能力はもちろんであるが、社交的な場を数多く経験させることも必要
○日本語学習をゼロからスタートする制度ではなく、事前審査制度を設けるべきだ。
○入学以前に日本語ができることは必須 / 留学の必修要件くらいの位置づけで。
○専門会話のほうが日常生活より上だという認識は改めたほうがよい。

○漢字圏と非漢字圏とを別に。

○時間数よりも厳しい内容の指導を。

○留学生の多い学部へ出張授業を月１回。

○講義の授業とドリル・プラクティスの時間を分離して。講義の授業は教官が教え、ドリル・プラクティスは少人数のクラスで短時間。できれば毎日。担当はTAを採用して実施するのがよいのではないかと思う。

参考になることが多いが、次のような本質的な問題提起もあった。

○大学全体として留学生にはどのような教育方針で臨むのか、ということをまず議論すべきで、日本語教育のノウハウ、人、金のことはおのずと答えが出てくる。

６、その他の自由記述の集約

全部収録するわけにはいかないので、示唆を与えてくれそうなものをピックアップすることにする。

○ これまでに受け入れた留学生には日本語能力に問題はなかった。

○ 日本語能力は専門によって必要性が異なる。留学生一般に必ず必要ではない。

○ 個人差が大きく一般的には言えない。

○ 現在は日本語教育に満足しているが、これから必要なことは非公式な留学生に対する日本の社会に接触する場を与える活動だと思う。

○ 日本語は十分だったが、英語がほとんどできなかった。英語教育はどうなっているのか。

○ 教官の外国語能力を高めるプログラムが必要

○ 研究上は留学生との意思疎通は英語で行っているが、やはり英語だけでは無理がある。日本人学生の英語コミュニケーション能力の向上に期待したい。

○ 手続きが日本語で書かなければならない。留学生への案内書類が日本語のみで表記されている。英語併記にできないのか。

○ われわれがアメリカで仕事をするために英語を習うのと同じように、日本で仕事をするのなら日本語を本気で学ぶべきである。

○ 留学したいのであれば日本語を勉強してくるのが当たり前。いつでも高度な日本語が学べるセンターであって欲しいと思う。

○ 国費留学生はレベルに関わらず受け入れざるをえず、対応は指導教官にかかってくる。私費留学生のような試験制度を導入できないだろうか。日本語の文献をどうしても読まざるを得ないときにどう対応するべきか。

○ 日本語教育を受けた留学生のレベルを指導教官にも通知していただきたい(ただし本人が了承した場合に限る)。

○ 日本語を学ぶことは必要である。英語で対応することもあるが、日本語教育は重要だと考える。「モノの考え方が違う」ことで戸惑い、日本人学生からの苦情もある。日本語教育の中で、「日本人のものの考え方」についての教育をして欲しい。

○ 私に 2 年間のサバティカルをくれるなら、日本語アカデミック・ライティングの教授法を勉強して、その授業の担当者になっても良い。

○ 留学生関係のこのようなアンケートが多すぎる。学内の関係機関で、年一回程度に調整するよう話し合って欲しい。業務の妨げになっている。

○ 留学生センターのホームページの存在を知ることができ大変良かった。このようなアンケートは毎年行って欲しい。

○ 日本に留学する人に日本語を教えることは専門を超えての意味もあると思われる。

○ 日本語のクラスに行かせると、外国人の友人がたくさんできて、互いに情報交換しているようだ。

○ お世話になっています。日に日に上達していくので、安心してお任せしています。

勘違いや情報不足・認識不足によるのではないかと思われるものも散見されるが、傾聴に値するコメントが多いので、これからの留学生センターの日本語教育及び留学生教育に、そして広島大学の留学生政策(?)に生かせるようにしたいものである。

（資料）　　留学生の日本語教育に関するアンケート

（2002年11月）広島大学留学生センター日本語教育部門

＜あてはまるものの番号（①、②、…）を○で囲んでください。質問は、12項目あります。＞

Ⅰ、指導している留学生が日本語が十分に使えず、指導上困っているということがおありですか。

① 非常に困っている。　②時々困ることがある。　③あまり困っていない。

④ ほとんど困っていない。

Ⅱ、指導を引き受ける際、その留学生の日本語能力を考慮なさいましたか。

① かなり考慮した。　②ある程度考慮した。　③あまり考慮しなかった。

④ ほとんど考慮しなかった。

Ⅲ、指導している留学生から、日本語能力が不十分なために日本での生活に支障があると聞いたことがおありですか。

① 大変支障があると聞いている。　②時々困ることがあると聞いている。

② あまり困らないと聞いている。　④ほとんど困らないと聞いている。

⑤ そのような話は聞いたことがない。

Ⅳ、留学生と日本語についてどのようにお考えですか。

① 日本語が使えなくてはいけない。　②日本語はある程度できればよい。

③ 自分と他の言語（例えば、英語等）で意思疎通ができればよい。

④ 留学生には日本語は不要だ。

（④とお答えの場合、アンケートはここで終わりです。）

Ⅴ、留学生に日本語は必要だと考える場合、どの程度の日本語能力をお求めになりますか。

① 専門の研究発表ができる。　②日常生活に困らない。　③片言で会話ができる。

④ 挨拶ができる。

Ⅵ、指導している留学生の日本語能力が不十分でさらに日本語を勉強させなければいけないと思った時、どうなさいますか。

① 留学生センター開設の日本語の授業を積極的に活用するように勧める。

② 日本人学生に指導を依頼する。

③ 教材を渡して自分で勉強するように指示する。

④ 自分で教える。

⑤ 研究室単位で援助している。（→どのようなものですか。下にお書きください。）

（　　）

Ⅶ、留学生が必要な日本語能力は、いつ身につけるべきだとお考えですか。

① 研究生になる前（指導を引き受ける前）

② 研究生になってから（指導を引き受けてから）

③ 正規の学生（大学院生、学部生）になってから

Ⅷ、留学生センターで開設している日本語の授業について御存知ですか。

① よく知っている。 ②ある程度知っている。 ③あまり知らない。

④ ほとんど知らない。

Ⅸ、指導している留学生が、留学生センターの日本語の授業を週何時間履修しているか把握していらっしゃいますか。

① よく把握している。 ②ある程度把握している。 ③あまり把握していない。

④ ほとんど把握していない。

Ⅹ、留学生センターの日本語の授業を受けるように留学生に勧めていらっしゃいますか。

① 渡日一年後ぐらいまでの留学生には、自分の授業よりも留学生センターの日本語の授業を優先するように勧めている。

② 日本語の授業と専門の授業とのバランスを取るように指導している。

③ 日本語の授業の必要を認めながらも専門の授業を優先しなければならない状況にある。

④ 日本語の授業よりは専門の授業を優先させている。

Ⅺ、（制度上可能になったと仮定して）留学生センターが、ティーチング・アシスタントや謝金講師等を導入して、現行の授業以外の日本語クラスを企画・運営しようとした場合、謝金・人材・組織等に関して支援する用意がおありですか。

① 大いに用意がある。 ② ある程度用意がある。 ③ どちらかと言えば用意がある。

④ あまり用意がない。 ⑤ ほとんど用意がない。

Ⅻ、留学生に対する日本語教育の形態として、どのようなものをお望みですか。クラスの開設時間帯、クラスの規模、教える内容等自由にお書きください。

[ ]

（御意見等がおありでしたら、お書きください。）

[ ]

（よろしかったら、名前・所属・連絡先をお書きください。）

名前：＿＿＿＿＿＿＿＿ 所属：＿＿＿＿＿＿＿＿

連絡先：電話＿＿＿＿＿＿ E-mail:＿＿＿＿＿＿＿＿

御協力ありがとうございました。